

令和5年度(2023年度)
京都市立芸術大学大学院音楽研究科入学試験

西洋音楽史

以下の4つの語群から最低2つずつ、合計10となるように選択し、簡潔に説明しなさい。人物名や作品名を選んだ場合は、西洋音楽史上の重要性についても触れること。解答用紙には、必ず選んだ語群のアルファベットと番号を記すこと。

語群 A

1. ピュタゴラス
2. ネウマ譜
3. トルバドゥール
4. ミサ曲《もしも顔が青いなら》
5. マドリガーレ
6. 讚美歌 (コラール)

語群 B

7. オラトリオ
8. ソナタ形式
9. クラウディオ・モンテヴェルディ
10. 《ドン・ジョヴァンニ》
11. コンチェルト・グロッソ
12. 弦楽四重奏曲

語群 C

13. ロシア五人組
14. グスタフ・マーラー
15. キャラクターピース
16. 絶対音楽
17. 「歌曲の年」
18. ライトモティーフ

語群 D

19. サウンドスケープ
20. ミュジック・コンクレート
21. 十二音技法
22. 《春の祭典》
23. ヤニス・クセナキス
24. トーン・クラスター

令和5年度（2023年度）

京都市立芸術大学大学院音楽研究科（修士課程） 共通科目試験

日本音楽史

1. 次の文の（ア）から（ト）に当てはまる語を、「語群 A」に記した語から選んで答えなさい。
- （1） 鎌倉時代になると、琵琶を伴奏に経を唱える琵琶法師の中から、軍記物語の『(ア)』を語ることを職業とする集団が生まれた。彼らの語る音楽を（イ）という。これが日本独特の（ウ）と呼ばれる音楽の原型になった。
 - （2） 現在に伝わる日本の雅楽は、日本古来の音楽である国風歌舞（くにぶりのうたまい）、（エ）と呼ばれる外来の音楽と舞、貴族社会の教養や楽しみとしての宮廷音楽の3つに分けることができる。国風歌舞は、『古事記』や『日本書紀』に基づく歌が多くあり、歌の伴奏には（オ）や神楽笛などを用いる。（エ）は、（カ）やインド、ベトナムなどから伝わった唐楽を伴奏とする左方の舞、朝鮮半島などから伝わった（キ）を伴奏とする右方の舞の2つに大別される。貴族たちは、儀式など公式な場では舞を行ったが、儀式のあとの宴会などでは（ク）と呼ばれる器楽の演奏も行うようになり、また、（ケ）や朗詠といわれる新作歌曲が作られ、これらが宮廷音楽として発展した。
 - （3） 能は、平安時代から神社の祭りのときなどに行われた（コ）と田楽から発達した舞台芸術である。（サ）時代に、観阿弥と世阿弥という親子が「能」というかたちにまとめあげ、江戸時代には幕府の公式の芸能である（シ）となった。また、主に町人が読み書きそろばんを習った（ス）では、能の台本を抜粋した「小謡」も学ばれた。
 - （4） （セ）時代に雅楽の中の楽器として（カ）から伝来した（ソ）は、安土桃山時代に賢順という僧が独奏楽器として用い、筑紫流を開いた。（タ）時代初期には、三味線の名手であった（チ）検校が、（ソ）を伴奏する歌や器楽曲を作り、（ソ）という楽器を大きく広めた。
 - （5） 歌舞伎では三味線を中心に、様々な楽器が演奏される。歌舞伎の舞台面で演奏される出囃子においても、舞台下手（しもて）の黒御簾の中で演奏される（ツ）音楽においても、打楽器は小鼓・（テ）・太鼓の3種を基本とし、管楽器は（ト）と篠笛の2種を基本とする。

【語群 A】

歌い物、語り物、弾き物、源氏物語、平家物語、平曲、宴曲、和讃、
国楽、式楽、礼楽、伎楽、舞楽、猿楽、高麗楽、催馬楽、文楽、大和楽、
管絃、三管、龍笛、能管、尺八、箏、和琴、七弦琴、二弦琴、鉦、鞆鼓、大鼓、
中国、蒙古、奈良、鎌倉、室町、江戸、明治、大正、藩校、寺子屋、
八橋、生田、山田、下座、上座

2. 「語群 B」の中から、3つを選び、選んだ3つの内容について、1つずつ説明しなさい。1つあたり 80～160 字を目安とする。自身の経験や考えを交えて説明してもよい。

【語群 B】

笙、箏、胡弓、声明、神楽、狂言、夢幻能、浄瑠璃、地歌、三曲、長唄、
義太夫節、常磐津節、浪花節、当道制度、都山流、琴古流、民謡、津軽三味線、
テトラコルド理論、陰音階、五声、十二律、弱吟、序破急、
越天楽、六段の調、那須与一、道成寺

3. 次の問いに答えなさい。

江戸時代以前に成立した日本音楽が、近代（明治時代、大正時代、昭和時代）に至って、どのような変化を生じたのか、どのような新しい試みを取り入れたのか、あるいはまったく変化しなかったのか、特定の種目・作品・楽器・人物など、あなたがよく知る事例を中心に説明しなさい。